平成30年度　全国学力・学習状況調査における

北九州市立　　　菅生　　　中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成30年4月17日（火）に、3年生を対象として、「教科（国語，数学，理科）に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。
この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。
学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。
なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

⑴ 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
⑵ 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
⑶ そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

⑴ 教科に関する調査（国語，数学，理科）

主として「知識」に関する問題（A）	主として「活用」に関する問題（B）
・身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容 ・実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能	・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力 ・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

※理科については、主として「知識」に関する問題と主として「活用」に関する問題を一体的に問う。

⑵ 生徒質問紙調査

生徒質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

⑴ 全国・本市の学力調査（国語A・B，数学A・B，理科）の結果

本年度の結果	国語A		国語B		数学A		数学B		理科	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	24.0	75	5.4	60	22.6	63	6.1	44	17.3	64
全国	24.3	76	5.5	61	23.8	66	6.6	47	17.9	66

⑵ 本校の学力調査結果の分析

国語A			全国平均正答率との比較
	全体的な傾向や特徴など	話の論理的構成や展開、話し合いの話題や方向を捉えることを苦手としている傾向にある。 文脈に即して漢字を正しく読むことはできるが、正しく書くことを苦手としている傾向にある。	下回っている
	よくできた問題	文脈に即して漢字を正しく読む問題や慣用句の意味を理解する問題は、全国平均より正答率が高い。	
	努力が必要な問題	文脈に即して漢字を正しく書く問題は、正答率が全国平均より低く、無解答率も高い。 目的に応じて文の順序や構成を考えて適切な文を書く問題の正答率が低い。	

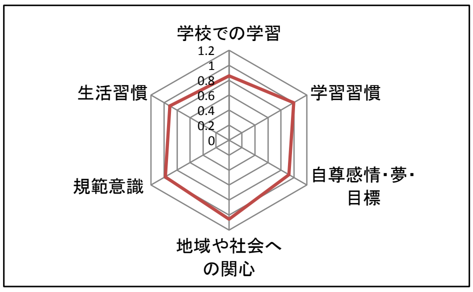
国語B			全国平均正答率との比較
	全体的な傾向や特徴など	全国平均正答率と同程度である。 言語についての知識・理解・技能については上回っている。	同程度
	よくできた問題	話の展開に注意して聞き、必要に応じて質問する問題は全国平均を上回っている。	
	努力が必要な問題	文章とグラフの関係を考えながら内容を捉える問題と目的に応じて文章を読み、内容を整理して書く問題の正答率が低い。	

数学A			全国平均正答率との比較
	全体的な傾向や特徴など	図形領域については、正答率が全国平均を下回っている。 資料の活用の領域については、正答率が全国平均を上回っている。	下回っている
	よくできた問題	数直線上に最頻値や中央値を求めること，数直線や座標の問題については全国平均を上回っている。	
	努力が必要な問題	等式の変形に関する問題、角柱と角錐の体積の関係、円と球に関する問題は、正答率が全国平均を下回っている。	

数学B			全国平均正答率との比較
	全体的な傾向や特徴など	すべての領域で全国平均より下回っている。 数学的に説明したり、論理的に説明したりする問題については、無解答率が高い。	下回っている
	よくできた問題	計算の手順に従って答えを導く問題については正答率が高い。	
	努力が必要な問題	与えられた情報から必要な情報を選択し処理する問題や、論理的に説明する問題の正答率が低く、無解答も多い。	

理科			全国平均正答率との比較
	全体的な傾向や特徴など	分野別の正答率の状況は、全国平均と同じで地学的領域が低い傾向を示しており、正答率は全分野でやや下回っている。 記述で解答する問題では、無解答率がやや高い傾向にある。	下回っている
	よくできた問題	地震の揺れの伝わり方や光と音の伝わり方に関する知識・技能を活用する問題については正答率が高い。	
	努力が必要な問題	オームの法則を使って抵抗を求める問題は全国平均と比べて正答率が低い。 植物と湿度の関係において「新たな疑問」を考える問題の正答率が低い。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析

地域や社会への関心が全国平均より高く半数以上の生徒が地域の行事に参加している。
学習習慣については、全国平均並みに身についてはいるもの、1日1時間以上勉強している生徒の割合は、ほぼ半数程度でその内容は主に学校の宿題に費やされている。読書習慣も半数以上の生徒が身に付いていない。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組（全校で・学年で・学級で）

①定期テスト前に基礎・基本問題のテストを実施し、課題ができるまで繰り返し挑戦させ、基礎学力の定着を図る。
②わかる授業5つのポイントに沿った授業づくりに取り組む。学期に最低1回授業研究を行い、1回は道徳の授業研究を実施する。
③毎月、読書週間を設け、読書活動に取り組む。

② 家庭生活習慣等に関する取組

①菅生ノートに取り組ませ、優れたノートを掲示するなどして、ノートの取り方を工夫させる。
②放課後学習スペースの「まなびば」を活用し、自習したり、教師に質問したりする場を整え、放課後に学習時間を有効に活用できるようにする
③家庭学習用のプリント等を長期休みや週末等の課題として出し、評価・点検する。
④定期テスト前の学習計画表の作成と、計画表に沿った自学学習ができるよう指導する。
⑤考査予想問題…定期テスト前に学習委員が作成した予想問題を、家庭での復習プリントに活用させる。